

研究計画書

ゼミ名	森ゼミⅡ	チーム名	消費動向調査委員会
タイトル	購買行動はコロナ・ウィルスによってどう変化した？		
テーマ群	c)公共経済		
メンバー			
研究計画内容	<p>「研究背景」</p> <p>コロナ・ウィルスの感染拡大は、日本の行動様式に様々な影響を与えた。コロナ・ウィルスが発生する以前の日本は、自分の足でお店に出向き商品を購入し、あるいは食事をした。しかし、コロナ・ウィルスが本格的に拡大していくにつれ、物を購入する場合にはネット注文が増え、食事をする際には、テイクアウトを利用する人が増えていった。そこで、われわれはコロナによる消費者の購買行動の変化と企業の変貌について考察した。</p> <p>「研究内容」</p> <p>まず、コロナによって経済はどのような影響を受けたか、栄えた産業と衰退した産業を考察する。そのうえで、独自のアンケート調査を実施し、コロナ・ウィルスの恐怖心により、どれくらい人々の購買行動に影響を与えたかを回帰分析で実証する。コロナ・ウィルスに対する恐怖心が非常に強いと考える個人は、できるだけ外出を控えると考えられる。例えば、物をお店で購入することからネットで購入することにシフトするといったことである。また、外食ではなくお店に電話をし、宅配代行サービスを利用し、食事を楽しむ人がいるのではないだろうか。逆に、コロナ・ウィルスに対する恐怖心が低いと考えている個人は、コロナ・ウィルスが発生する以前の生活と変わらず外出をし、お店で物を購入することや外食を楽しんでいるのではないだろうか。</p> <p>「期待される成果」</p> <p>コロナは私たちの購買行動にどのような影響を及ぼしているのか、人々の意識によって今後、栄える産業と沈む産業を考えることができる。アンケートの集計結果から相関関係を導き出すことで、新たな視点から産業界全体の大きな変化をマクロ的なダイナミズムで総括できるような結論をまとめていく。</p>		